

北海道教育大学函館校

第2号

江差ソーシャルクリニック ニュース



コロナ時代の SC 活動

平素より江差ソーシャルクリニック（江差 SC）の活動に対するご理解とご協力をありがとうございます。江差 SC は、大学と町民の皆様が一緒になって地域課題を解決していこうという取り組みです。

昨年度、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、江差 SC の活動は大きな制約を受けました。そんな中でも、皆様のご協力のおかげで、一部の活動を実施することができました。心より厚く御礼申し上げます。今号では 2021 年 3 月までの活動についてお知らせします。今年度も江差 SC の活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター センター長 齋藤 征人
江差 SC プロジェクトチーム 代表 古地 順一郎

コロナ禍でもプロジェクトチームが奮闘～江差まちづくりカフェ～ 担当：齋藤 征人

今回のご報告は、生活支援コーディネーターの中川めぐみさんと片石弥由蘭さんからいただきました。ご多用のところご寄稿いただきありがとうございました！

江差町から始まった「まちづくりカフェ」では、現在道内の各地域流にカスタマイズされながら展開されています。昨年度はコロナ禍により、ほとんどの地域のワークショップは開催が見送られましたが、江差町では万全な感染対策のもと、計3回も対面でのワークショップを開催。のべ85人もの地域の皆さんが参加されました。またこの他にも各プロジェクトチームはそれぞれに特色ある活動に取り組みました。

昨年度はマスクづくりにも取り組んだ「ものづくり」、食を通じて地域との交流を図っている「自給自足」、ラジオ体操を通じた多世代交流に取り組む「江差ウォーカーズ」は、従来から継続的に地域づくりに取り組んでいるチームです。この他にも、エコバック集めをきっかけにサポートを必要とする人への生活支援に取り組む「ちーむ♡こらぼ」や、未来を担う子どもたちが参加しやすいイベントを開催することで多世代交流によるつながりづくりに取り組む「チーム☆Spaceship」は、コロナ禍で開花したチームです。

なかでも、町内3つの小学校の児童に、コロナ禍やお祭り中止へのさまざまな「思い」を募集した短冊コンクールでは「チーム☆Spaceship」が活躍。町内から合計188点もの作品が集まり、作品は江差ユネスコ協会へ提供されました。

昨年度は暗いニュースが続きましたが、各チームの皆さんと共に活動しているときは楽しい時間が流れました。今後とも、地域の皆さんの笑顔が絶えることがないよう、町内の生活支援体制整備に地域の皆さんと共に取り組んでいきます。



(裏面に続きます)

「HAKODATE アカデミックリンク 2020」で審査員特別賞受賞！ 担当：古地 順一郎

江差 SC では、上町商業地区の活性化に向けたプロジェクトも実施しています。この取り組みの一環として、学生による調査・研究、活性化策の提案を定期的に行っており、その成果を「HAKODATE アカデミックリンク」で発表しています。このイベントは、函館にある 8 つの高等教育機関から構成されるキャンパス・コンソーシアム函館が毎年開催している合同研究発表会です。

昨年度は、コロナ禍により江差町で活動することがほとんどできなかったため、これまでの活動を通して見えてきた上町商業地区の課題を確認した上で、全国各地の商店街で実施されている好事例を調査し、活性化策をまとめる作業を行いました。また、第 2 回ニシンチャレンジカップの内容についても検討し、企画案としてまとめました。これらの活動を紹介するポスターを作成し、「江差に大漁の愛を～ニシンでつながる輪～」として出展しました。おかげさまで、審査員特別賞をいただくことができました。学生たちにとっても自信になったようです。

このポスターで紹介された商店街の活性化策については、今後、報告書という形でまとめていきます。また、第 2 回ニシンチャレンジカップについては、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら実施に向けた検討を進めていきます。学生たちの取り組みを引き続き応援していただけると幸いです。



〈地域の方から〉

江差町役場 伊藤 公

令和元年度に江差 SC 担当になって以降、古地先生と学生とは、まち歩きツアー、ニシンチャレンジカップなど一緒に取り組みを進めています。



まち歩きツアーでは、私が行程を組みますが、1日では回りきれないほど紹介したい場所が多くあることに気づきます。また、地元の方にガイドをお願いしておりますが、改めて人情豊かな町であることが実感できます。

ニシンチャレンジカップは、「ニシンといえば江差」というイメージを町外へ発信するため、新たなニシン製品の創出を目的に開催されました。

町民からは、「固定した考えのイベントとは違い新しい風が吹いた気がする」「学生と商店街のみなさんが一緒に頑張っている様子が見ていて良い」など、新鮮な意見が寄せられました。

古地先生が「世界の江差」と言われているように、私も江差には世界に誇れるものがあると考えています。江差町の新たな魅力発見につながることから、学生の視点は江差町にとっても大事であります。今後とも函館校の学生とつながり「世界の江差」を目指していきたいと考えております。

法華寺通り商店街組合 高岡 人夢

多くのローカルコミュニティでは、本業もある中で取り組んでいることから、仕方がないこととも思いますが、通例に重きを置くことで、本来の問題から目を背け、新しいことに挑戦することを嫌うケースがとても多いと感じます。そんな中、法華寺通り商店街も例外ではありません。



学生たちとの話し合いはそんな私たちの停滞した意識を活性化させるものです。学生の皆さんにはそのことを頭の片隅においていただき、失敗を恐れずに挑戦、もっと言えば実験してもらいたいです。その刺激こそ私たちが享受できる最大の恩恵なのです。

逆に一番恐れるべきは、私たち商店街の意識が受け身になることであり、大学に依存して大学抜きでは何もできないようでは取り組みの意味がなくなってしまいます。

学生の皆さんには学びの場、私たち商店街にとっては意識改革の場として、互いに利益を得られる状態こそが健全な状態かと思っておりますので、今後ともお互いのために頑張りましょう。

発行

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター 江差 SC プロジェクトチーム (代表 古地順一郎)

〒040-8567 北海道函館市八幡町 1 番 2 号 電話：0138-44-4354 (古地研究室) E-MAIL: koji.junichiro@h.hokkyodai.ac.jp

※ご意見・ご質問は上記の E-MAIL へお寄せください。